

令和元年度 千曲市立図書館協議会概要

日 時 令和元年6月18日(火)
午後2時から午後3時30分
場 所 戸倉庁舎 4階 第2会議室

1. 開 会 (生涯学習課長)
委員への任命書の交付 (赤地教育長)
2. 教育長あいさつ (赤地教育長)
3. 自己紹介
4. 正副会長の選出について 会長は酒井康行委員、副会長は鈴木綾委員を選出
4. 協議事項
 - (1) 千曲市立図書館の概要について 事務局説明
 - (2) 平成30年度事業報告について 事務局説明、質疑応答後採決、承認
 - (3) 令和元年度事業計画について 事務局説明、質疑応答後採決、承認
 - (4) 第3次子ども読書活動推進計画策定について
 - (5) 図書館運営についての意見交換

委員から出された主な質問及び意見	市(事務局)の説明及び回答
○昨年度と比較すると、貸出数が減少しているのはなぜか。	○図書館システム更新・構築事業のため、約1か月にわたる休館があった。昨年度より休館日数が多かったため、利用の減少に結びついたと考察する。
○使用料・賃借料が昨年より増加しているのはなぜか。	○図書のデータ使用料は、購入数が増えたことによる。そのほかの使用・賃借料は全国的な物価上昇によるものと考えられる。
○蔵書の構成について、絵本や紙芝居が児童書として一括りになっているが、大人向けの絵本・紙芝居もあるのでは。	○蔵書は日本十進分類法(NDC)に沿って構築している。NDCに準じない新たな分類を設けることで大人向け絵本という分野の集計ができるか、検討してまいりたい。
○更埴図書館は開設されて38年ほどになるが、耐震・建て替えの計画はあるか。	○更埴文化会館の建設により図書館が併設化された際に耐震化を行っている。建て替えの計画はないが、耐震基準を満たしているので安全に使用してもらえる。
○令和元年度の事業計画で、子育て広場への職員派遣を止めてボランティアに依頼するのはなぜか。	○子育て支援センターからの申し出であり、図書館が要請を断ったわけではない。センターはボランティアに依頼したいようだ。
○ケーブルTVを使った広報活動について昨年度提言した。その後の活動状況や市民の反応はどうか。	○TVで新刊を紹介する際、書影使用の申請など著作権面でクリアする課題が多い。そのため、書影を提示するのではなく、職員がピックアップした本(受賞作など)10数冊をテロップ式で紹介している。市民は見てくれている人がいる。
○セカンドブック事業で配布した本のうち、希望する児童が1名しかいない本がある。リストの見直しは考えているか。	○平成29年度より始めた事業であり、まだ2回目である。贈呈する20冊のリストを作成する際、5年間は同一のリストで児童の反応を見ようという

<p>○ブックスタート時に保護者に配布しているおすすめ絵本のリストについて、紹介している本が古いのではないか。リスト本の見直しをしてみたい。</p> <p>○寄贈本への対応は的確に行っているか。寄贈簿への記入や令状の送付について聞きたい。</p> <p>○子どものネット利用増加、活字離れが問題視されている。教育委員会で対策は行っているか。</p> <p>○除籍された本の処理はどうしているか。</p> <p>○大型絵本・紙芝居の数が少ない。大型絵本は色あせや傷みがあり買い直してほしいが、予算をどこに使っているのか。また、新たに購入した絵本の絵作者が異なることで、本の雰囲気や損ねているものがある。どのような選書を行っているのか。</p>	<p>結論となった。今しばらくは29年度に選定したリストで事業を行いたい。</p> <p>○指摘の通り、対象者が2人目以降の子どもの場合、1人目のブックスタート時に受け取ったリストと同一の内容になってしまう。読書アドバイザーに助言をいただきながら、リストの見直しを検討したい。</p> <p>○通常は寄贈を受けると、寄贈簿へ記入をしている。本を受け取る際、令状の要不要について伺っている。多くの方が令状の送付は断るので、希望者のみに送付している。</p> <p>○学校では読書週間・旬間を設けたりノーテレビ・ノーゲームタイムの呼びかけを行っている。これらには保護者の協力が不可欠である。第3次子ども読書活動推進計画では、数値目標を掲げそれを達成するために家庭・地域・学校が一丸となり進める必要がある。特に家庭はコミュニケーションを養う第一の場であり、家庭での読書習慣が定まることで効果が現れると考えている。</p> <p>○受入から20年を経た資料で、保管の必要がないものを除籍している。料理など流行に左右されない分野は古書市で市民に還元する。児童書や絵本は使用・保管に耐えないものを除籍しており、除籍後も入手可能である本は購入し直し、市民に提供している。</p> <p>○大型絵本や紙芝居は1冊1万円と高額である。また、図書館は児童書だけでなく郷土資料や参考資料などあらゆる年齢層を満たす資料を収集・提供する必要がある。大型本だけに予算を集中させることは難しい。</p> <p>図書館はおなじタイトルの本でも訳者・絵作者の異なるものを購入したり保管している。様々な事情で図書館を使う利用者に、幅広い資料の提供ができるよう努力している。</p>
--	--

委員出席者 酒井康行、鈴木綾、寺澤孝一、北村勝則、滝沢通雄、竹内長生、小林いせ子、北原美知子、桑原悦子 以上9名（欠席：北澤美秀）

事務局出席者 教育長 赤地憲一、生涯学習課長 松崎高志、更埴図書館長 北島正光、戸倉図書館長 安西治夫、更埴図書館兼戸倉図書館業務係長 小笠原千鶴、更埴図書館司書 高橋博子、戸倉図書館兼更埴図書館主査 宮崎摩紀